

令和元年の台風第19号では過去最多の約5000人の市民が避難所へ避難した一方、自宅にペットがいるために避難しなかった人も多くいました。市は、「生命あるものを大切に」「逃げ遅れを防ぐ」という観点からガイドラインを作成しました。2月1日から全避難所でペットの受け入れを開始します。

# 全避難所で ペットの 受け入れを開始



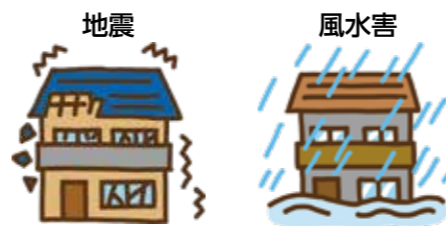
【ペットに関すること】環境政策課 ☎(235)4912  
【避難所に関すること】危機管理課 ☎(235)4790

## イメージしよう

災害発生時は、人とペットが同じ避難所へ一緒に避難できるようにになりました。左図を参考に、避難をイメージしましょう。  
避難所には動物が苦手な人やアレルギーがある人など多様な人が集まるため、ペットは避難所内のペット専用スペースでケージなどで飼い主

が管理します。市の避難所に行くときは、ペットフードや水などの持ち出し品(3頁)を持参してください。被害状況が落ち着いた後は帰宅します。自宅に居住できない場合は、ペット避難所として開設する北部公園体育館に移動します。

## 1 大規模災害発生



## 2 安全な場所に一時的に避難

避難所	または	避難所以外
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校</li> <li>●コミセン・文化センター</li> <li>●北部公園体育館</li> <li>●えびな市民活動センタービナレッジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ペット専用スペースで管理します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親戚や知人宅への縁故避難</li> <li>●車中泊避難</li> <li>●自宅が安全な場合は在宅避難</li> <li>●ペットホテル</li> </ul>

## 3 被害状況が落ち着く(目安は24時間後)

自宅に居住できない	または	自宅に居住できる
<ul style="list-style-type: none"> <li>●北部公園体育館へ避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北部公園体育館をペット避難所として開設します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰宅</li> </ul>

## 確認しよう

受け入れ可能なペットの種類や条件を確認し、避難所ではルールを守って管理しましょう。

### 種類

犬・猫・小動物などを受け入れます。



**受け入れ不可**

- 環境省で危険と定める特定動物
- ヒーターやエアポンプなど付帯設備を必要とする動物

## 備えよう

### 健康管理

ブラッシングなどで体を清潔に保ち、ワクチン接種や寄生虫駆除をするなど、日頃から健康の管理をしましょう。

### しつけ



無駄吠えや排せつなどのしつけのほか、ケージやキャリーバッグの中でも生活ができるようにしておきましょう。

### 身元が特定できる物

首輪や迷子札、マイクロチップなどを身に付けさせましょう。離れてしまったペットが保護されたときに、再会できる可能性が高まります。



首輪・迷子札  
マイクロチップ

### 持ち出し品

避難所にペット用品の備蓄はありません。持ち出し品を準備し、優先順位をつけ、状況に応じて持ち出せるようにしておきましょう。

#### 優先順位1

- 生命・健康に関わるもの
- ペットフード・水(5日分以上)
  - 療法食・薬
  - 予備の首輪と伸縮性のないリード
  - 食器
  - ガムテープ(ケージの補修など多用途に使用可能)

#### 優先順位2

- 飼い主やペットの情報
- 飼い主の連絡先
  - ペットの写真
  - ワクチン接種状況の記録
  - 既往症・健康状態が分かるもの
  - かかりつけ動物病院の連絡先 など

#### 優先順位3

- ペット用品など
- ペットシート、排せつ物の処理用品
  - 洋服(毛の飛散防止)
  - タオル・ブラシ
  - 使い慣れたおもちゃ、おやつ など

### 条件

#### ペット全般

●ペット専用スペースで、飼い主の責任で管理できる。

●ケージの中やリードで管理できる。  
●ペットフード・水・トイし用品などの飼育用品を持参できる。

#### 犬のみ



●鑑札・狂犬病予防注射済票を装着している。

●疾病などで狂犬病予防注射を受けていない場合は、動物病院で発行される「狂犬病予防注射証明書」を提示できる。

### 避難先



避難先は安全な場所であれば市の避難所である必要はありません。飼い主とペットにとって適切な避難先を検討しておきましょう。縁故避難や自家用車などでの車中泊避難も有効です。車中泊の場合は浸水しない高台を選び、エコノミークラス症候群の予防策も考えておきましょう。